

保護司会会報

発行 西多摩地区保護司会 会長 原島 悟 編集 西多摩地区保護司会 広報部 発行日 令和7年3月15日



瑞穂町三地区（殿ヶ谷・石畑・箱根ヶ崎）合同夏祭り 瑞穂町提供

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

西多摩地区保護司会
会長 原島 悟

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より本会の運営ならびに更生保護活動に対しましては、理解とご支援を賜り心から篤く御礼申し上げます。

昨年は更生保護制度施行75周年を迎え大きな節目の年でありました。

しかし、地震、気候変動による災害、滋賀県で保護司制度の根幹を揺るがす様な事件が起きました。こうした中、西多摩地区保護司会は大きな成果を上げました。長年の課題でありました、サポートセンターの移転問題が解決し、各専門部においても今までにない素晴らしい成果を上げる事が出来ました。これもひとえに皆様の暖かいご支援と協力のおかげです。

今年も是非ワンチームで保護司会を支えて頂きたいと願っています。

結びになりますが、本年が穏やかな年になることを願い年頭のご挨拶とさせていただきます。感謝でいっぱいです。

西多摩地区保護司会新年会

総務部長 對馬伸一郎

大寒とは言え3月中旬並みの暖かな1月22日（水）、あきる野ルピアで新年会が104名の参会者により開催された。

会長の年頭の挨拶に続き、中嶋博幸あきる野市長、土公千鶴立川支部長、松本眞由美東保連会長から挨拶を頂く。その他の来賓及び新任保護司の紹介の後、下嶋桐友会会長より乾杯の辞。

清興は中里真二町田地区会長によるマジックショー。土公支部長、郡司福生分区長もアシスタントとして登壇。空の紙袋からグラスワインやカップうどんが出て来る不思議。2つ共会長が食す。

恒例の福引抽選の後、1の締めは齋藤主任官の乾杯発声。大締めは8分区長による手締め。小野副会長による会報PRを兼ねた閉会の辞。司会の私市総務副部長の今年も頑張ろうの力強い宣言で閉会した。



原島会長挨拶



中嶋あきる野市長挨拶



土公立川支部長挨拶



松本東保連会長挨拶



下嶋桐友会会長乾杯



抽選会



会場全体



各分区長の手締め

各分区視察研修

青梅分区 府中刑務所視察研修

久保 一利

本年の管外視察研修先は、環状7号線地下調節池と府中刑務所の2ヶ所、11月7日に21名の参加で実施しました。バスの中で、各自資料による事前の研修をしながら研修先に向いました。最初の視察場所地下調節池は、大雨による災害対策のための施設で、想像以上の巨大な広さを持つ設備でありましたが、近年の地球規模の異常気象を鑑みると更に施設の強化拡大が必要と感じました。次の府中刑務所は受刑者の作業場の視察でしたが、私語が一切許されない張り詰めた空間でした。作業時間は、概ね1日6時間程度です。家具、靴、鞆、日用品等受刑者の作る品々は種類が多く一般にも販売されていて、いずれの品も丁寧に作られており完成度も高く評判は良いとの事でした。淡々と従事している受刑者を見て、ここで修得した技能を糧に、再犯を起こすことなくしっかりと社会復帰して欲しいと願いました。来年も有意義な視察研修を計画したいと思います。



福生分区 栃木刑務所視察研修

野島 栄二

10月10日、福生分区16名と事務局の計17名で栃木刑務所へ1泊2日の視察研修に出発しました。栃木市内の個性ある街並みを観ながら静観な場所に建つ栃木刑務所に到着。ベテラン刑務官からの丁寧な施設概要の説明を受けました。栃木刑務所は、全国に9か所ある女子刑務所の中でも最大規模で常時500名前後の受刑者を収容しています。近年は外国籍の女性も増えてきており最年少は18歳、最高齢は89歳と幅広い受刑者を収容しています。刑務官からは、「受刑者の多くは家族やパートナーに恵まれず同情の余地がある。」という話が印象に残りました。



刑務作業は、女子刑務所の特性を生かした伝統工芸をあしらった小物製作のほか、洋裁、金属加工・組立などを行っていました。また、職業訓練として美容科があり、昨年10月には外部の美容専門家を招いての技術競技大会を開催したところ、地元のテレビ局で放映されました。技能レベルも高いことから近隣の一般の方も客として来るとのことです。社会復帰に向け施設を挙げて積極的に取り組んでいる様子が伺え、頼もしく感じました。視察終了後には活発な質疑応答が行われ、3時間の施設研修が短く感じられました。翌日は、栃木県の大谷石資料館を見学し、歴史と変遷にも触れることができました。

羽村分区 愛光女子学園視察研修

内田 正敏

令和6年11月28日、保護司14名事務局1名の計15名で快晴の中、愛光女子学園に向いました。学園は粕江市にあり、住宅密集地の中にある施設で、近隣からの俯瞰対策等をしっかり行っていました。13時から宮川次長に概要説明をして頂きました。愛光女子学園は、日本で最初の女子少年院です。1949年1月に旧少年保護団体「娘の家」を転用し、「武蔵野女子学園」として開設し、同年4月に「愛光女子学園」と改称して現在に至っています。入院から出院（仮退院）まで概ね1年で、最長2年です。主な教育は、教科指導、職業指導、アイスタ（愛光スタディ）等を行っています。28日現在の収容人員は24人で、14歳から17歳です。犯罪は、詐欺、ぐ犯、闇バイトによる受け子、売春、薬物等です。説明の後、園内を視察しました。庁舎等の建物は、室内、敷地共々大変綺麗でした。敷地内の一部を「防災ひろば」として地域に開放しているとのことでした。また、2021年度に教育・支援部門が人事院総裁賞を授与されています。視察の後、質疑応答が行われました。今後の保護司活動を行う上で、大変勉強になりました。感謝の気持ちをもって15時に帰路につきました。



あきる野分区 水府学院視察研修

私市 豊

令和6年10月28日(月)あきる野分区21人を乗せたバスは、定刻の午前7時15分にあきる野を出発、一路水戸方面を目指して圏央道を進む。順調な進行が、鶴ヶ島を過ぎたあたりで事故のため大渋滞にはまる。時は刻々と過ぎ、結局、水府学院へは予定の10時を15分ほど遅れて到着する。



遅れのお詫びを伝え、直ちに講義に入ってください。1時間あまりの講義と施設内の見学の講師は、学院の上田次長(教頭職)。ソフトで分かりやすい話しぶりは、心地よく胸にストンと落ちる内容である。水府学院は16歳5か月から20歳未満の少年が対象で、義務教育修了者のうち社会適応上の問題がある者が収容されている。現在の収容者は、定員92人のところ50人である。近年はIQ80から89の少年や発達障害の少年の入所が増えているとのことである。教育内容のうち、職業指導では木工科、陶芸科、ICT技術科などがあり、卒院してからの社会復帰のための技能取得に取り組んでいる。施設内は、開放的で、まるで普通の学校敷地内のようなのである。

研修終了後、バスは大洗へ向かい、雄大な太平洋を満喫しながらのアンコウ鍋に舌鼓を打ち、帰路は、事故もなく順調に夕方5時に無事に、あきる野に到着し、楽しく充実した研修を終了した。

瑞穂分区 府中刑務所視察研修

高松みゆき

10月10日曇り。保護司13名事務局の計14名で府中刑務所を視察しました。

入り口から入った瞬間、空気が変わり、作業見学をすると更に空気が変わる貴重な体験をしました。



刑務官から施設の説明を聞きました。

府中刑務所は日本で最も大きい、東京ドーム5、6個分の広さで、職員定員629名収容定員2、668名。刑期10年未満の犯罪傾向の進んだ日本人、外国人受刑者、身体・精神疾患患者。(医療重点施設)受刑者を改善更生させるために作業指導及び教科指導を実施。作業では皆集中していました。

生活面ではベッドの部屋、個室など、外国人が増えているのでパン工場ができていました。

色々と考えさせられ複雑な思いをした視察でした。

今回、大変お忙しい中快く視察を受け入れて頂きありがとうございました。

日の出・檜原分区 宮城刑務所視察研修

佐藤 春彦

11月7日、日の出・檜原分区合同での宮城刑務所の視察研修を行いました。

当日は、担当官による施設の概況・沿革・組織内容・受刑者等について説明を頂きました。

○ 刑務所としての開設

宮城刑務所は、伊達政宗が晩年暮らしていた若林城に明治12年、宮城習治監という名称で開設され、この当時の収容者は、西南戦争に伴う政治犯を収容、後に大正11年から現在の名称となった。

昭和36年以降は、受刑者の診療・身体上及び精神疾患等に対応できる医療センターを併設し、ドクター常駐の体制で受刑者の出所時も視野に万全を期しているとのことでした。

○ 受刑者人員と生活環境

収容人員は、740名、現在は460名で無期刑を含む10年以上の犯罪傾向が進んだ受刑者が収容されており、受刑者も世間と同様に高齢化の波が押し寄せているとのことでした。

生活環境は、独居房でベッド、机、トイレに加え、テレビも備え付けられていることに驚きました。

○ 刑務作業と刑務官

懲役受刑者の義務として改善更生と社会復帰のためにおこなわれている木工・衣類制作の作業場を視察



しました。

作業場内は整然とし緊張感が漂い安全面・保安面を刑務官が厳しく担っておりました。

刑務官が厳しく監視するにあたり、肉体的精神的な面で御苦労されていますことに敬意を表すと共に健全な心身を保つために、ワークライフバランスを取り入れ仕事、私生活の調和が取れる環境作りを行い、事故等の防止に努めているとのことでした。

私たちも常に健全でバランスを整えられる心身を兼ね備え対象者の再犯防止のため社会で孤立せず、安定した生活基盤を整えられる環境作りと併せて現代にマッチした保護司活動実現と併せて経験豊かな諸先輩皆様のご指導を頂き今後の立直り支援に邁進して行かなければと改めて思う視察でした。

奥多摩分区 長野刑務所視察研修

佐久間砂由利

小春日和の穏やかな晩秋、保護司6名と事務局計7名で長野刑務所を視察研修しました。

須坂市にある長野刑務所は、蔵の町須坂をコンセプトにして、所内の塀は倉をモチーフにして、現在、造作中とのこと。

庶務課長、野表さんから、沿革、組織、施設内の説明を受け、所内の作業場を見学しました。

染色機織り工芸家の指導を受け、マフラーやストール等の絹製品を製作し、市の返礼品に活用するなど、積極的に前向きに生産活動していると感じ、革製品コンテストで日本一の賞状が作業所に置かれていて、技能の伝承がしっかり受け継がれている様子でした。

反面、収容人数1,229人、収容率65%、70歳以上21%、入浴・排泄の介助が必要で、介護施設化されてる現実問題もあるそうで、障害者専用の作業所を見学しましたが、様々な障害を持っている人が作業している難しさを感じました。

偶然に所内で配食されている三食、麦4・米6の米飯、野菜煮物等がワゴンに置かれてあり（検食）、てんこ盛りの米飯にビックリしました。

職業訓練を充実させ、就労支援に力を入れ、再犯の防止につなげている姿勢をみて、所内を後にしました。帰り際に、作業製品（革靴、枕、ベルト等）を購入しました。そばがら枕、寝心地最高です。



会 務 報 告

新任保護司（敬称略）

以下の方々が委嘱されました。
今後のご活躍を期待いたします。



（青梅分区）
横手 和子
12月22日発令



（瑞穂分区）
横澤 和也
12月22日発令

退任保護司（敬称略）

長い間お疲れさまでした。
今後ますますお元気でご活躍くださいますよう
ご祈念申し上げます。
（令和6年12月21日付）

岸野 穰 （あきる野分区） （在職年数32年）

野村 頼子 （青梅分区） （在職年数26年）

粕谷 道子 （瑞穂分区） （在職年数24年）

村上 浩 （あきる野分区） （在職年数14年）

高木 裕 （日の出分区） （在職年数 4年）

麦久保園での社会参加活動

青梅分区 本橋義雄

晴天に恵まれた12月15日(日)、あきる野市内の特別養護老人ホーム麦久保園で、社会参加活動が行われ、対象者1名と担当保護司1名および西多摩保護司会地域活動部6名の計8名が参加しました。

活動内容から、施設内のベッドのシーツ交換と車椅子のフレーム清掃に保護司2名、施設の裏山の環境整備作業に保護司5名と割り振りました。

施設長から、特別養護老人ホームの利用者は、自分の判断で日常の行動が進められなくなったことや、生活介護に第三者の支援がなくては家庭生活を送れなくなったこと等が、入所理由の主なものとの説明に、対象者も聞き入っていました。

シーツ交換も、対象者は、施設職員と2名1組になって手際よく作業を進めたため、「あり

がとうございました。」と利用者からお礼の言葉をいただくなど、自己有用感の醸成に役立ったのではないかと感じております。

裏山の環境整備作業を担当した班は、持参した剪定ばさみなどで、急な斜面での作業にもかかわらず、慣れた手つきで無事行うことができました。

施設側のご協力に感謝するとともに、更生保護に、地域の社会資源の活用が大切なことを改めて認識した1日でした。



西多摩地区保護司会実務研修～保護司ホームページ「H@（はあと）」の活用～

福生分区 郡司光志

12月5日に羽村の産業福祉センターで行われました。はじめに原島会長の挨拶があり、次に西多摩地区総務部ICT担当の辻本氏、玉川氏、森田氏を代表して玉川氏からH@（はあと）の利用状況についての調査結果が発表されました。報告書を紙で提出している方は57.6%、H@での提出は31.5%、自作のソフトで提出している方は10.7%とのことでした。

パソコンの扱い方として、ウイルス対策はなるべく最新のものにすること。できれば家族との共用は避ける。外出先では使用しない。など

の個人情報の保護と情報セキュリティについての注意もありました。その後、東京保護観察所民間活動支援専門官・林久人主任保護観察官によるH@の実際の活用について講義をいただきました。

林観察官によると、インターネットはそもそも無秩序な世界であるということ。セキュリティは使う私たち個人にかかっているのだと痛感しました。最後にH@でのわからないことは、観察官に遠慮なく聞いてほしいとのことでした。



地域活動推進講演会

青梅分区 安藤尚子

令和6年度地域活動推進講演会は、11月6日、秋川キララホールにて映画「記憶2」の上映会という形で開催されました。

この映画は、令和5年度地域活動推進講演会の講師であり、自身も少年院出院者である中村すえこ氏が、日本全国の少年院を訪れて出会った少年たちのドキュメンタリーです。

幼い頃より親からの暴力を受けて育った少年、今まで人に相談することはダサいと思っていた少年、ずっと甘えられなくて、認められなくて家に居場所がなかった少年など、インタビューをする中で彼らの犯した罪の背景が明らかになっていきます。また映画には、少年たちの出院後も何かと気にかけて、手紙のやりとりや面会を通し彼らの心の支えとなっている中村氏の姿も描かれていました。

中村氏は映画の中で次のように語っていま

す。「非行は少年だけの問題ではない。少年の背後にある大人の問題である。」と。

私も面接時には、対象者の犯罪に至るまでの背景を十分理解し、彼らに向き合えるよう努めていきたいと思いました。



役員候補者選考委員会

委員長 小島良彦

11月29日（金）西多摩地区保護司会第3回理事会がおこなわれた後に残された12人の役員候補者選考委員会のメンバー、この時が初顔合わせで、お互いもよく知らない中で正副委員長の譲り合いをしていたが、委員長には青梅の小島保護司が、副委員長にはあきる野の岡部保護司が、会計には福生の平田保護司が選任され、次回の委員会の12月18日（水）に集まるときには「各分区の役員候補者を持ち寄ろう」と約束して解散しました。

12月18日に羽村コミュニティーセンターの会議室に集まり、それぞれの分区からの候補者を出し合いました。この時に分区の全候補者の名簿は6分区から出てきました。この時に候補者が出ていない分区については「年明けには決めよう」と約束して2回目の選考委員会を終

了しました。

1月24日に西口会議室に集まった時には、名簿はそろったのですが、会長候補者、会計理事候補者、庶務理事候補者、会計監事が歯抜け状態となり、各分区の選考委員に適任者がいたら推薦してくださいとお願いして、2月10日にやっと全役員候補者を選出することが出来ました。西多摩地区保護司の皆様には委員長はもとより、選考委員からの無茶ぶりや集団で押しかけて数の力で押し切るといったやり方で、大変ご迷惑をおかけしたことにお詫び申し上げます。ご協力ありがとうございました。



選考委員

春の褒章



柏谷 道子
(瑞穂分区)

令和6年春、藍綬褒章を受賞しました。たくさんの方々から心温まるご指導とご支援をいただき、楽しい保護司生活でした。

この受賞は、お仲間の方々と家族からの私へのプレゼントのような気がします。ありがとうございます。

保護司会の皆様、益々のご活躍をご祈念いたします。

法務大臣表彰

小林喜代子
(福生分区)



春原 玉恵
(羽村分区)



令和6年度東京更生保護事業関係者表彰 被表彰者

春の褒章	柏谷 道子 (瑞穂分区)		
法務大臣表彰	小林喜代子 (福生分区)	春原 玉恵 (羽村分区)	
全国保護司連盟理事長表彰	小峰 恒夫 (瑞穂分区)	本橋 義雄 (青梅分区)	山森 健吉 (青梅分区)
	澤井 和子 (あきる野分区)		
関東地方保護司連盟会長表彰	町田 幸子 (青梅分区)	青谷 淳一 (あきる野分区)	大澤 健男 (奥多摩分区)
	佐々木庸喜 (羽村分区)	福田 米親 (青梅分区)	荻原 稔 (羽村分区)
	佐藤 弘治 (福生分区)	清水 義朋 (福生分区)	杉浦 裕之 (瑞穂分区)
	高橋 弘貴 (瑞穂分区)	吉野真智子 (福生分区)	
東京保護観察所長表彰	笹倉眞一郎 (青梅分区)	武藤 悦子 (あきる野分区)	門田喜美男 (青梅分区)
	小島 良彦 (青梅分区)	小山 幸久 (瑞穂分区)	平井 裕 (あきる野分区)
	星野 和弘 (青梅分区)	宮崎 修 (瑞穂分区)	浦野 治光 (あきる野分区)
東京都保護司会連合会会長表彰	笠原 篤 (福生分区)	栗原伊知郎 (青梅分区)	河野 力 (あきる野分区)
	佐々木恵子 (福生分区)	高木 裕 (日の出分区)	野島 栄二 (福生分区)
	桑田 和美 (青梅分区)	鈴木 早苗 (瑞穂分区)	高取 篤 (あきる野分区)
	高松みゆき (瑞穂分区)	福島 政夫 (瑞穂分区)	
東京保護観察所長感謝状 (家族功労)	鈴木 功 (あきる野分区)	對馬 寿子 (日の出分区)	

編集後記

私は令和5年4月に西多摩地区の理事として広報部に配置されました。10名の広報部の皆様は和やかで優しい人ばかりで和気あいあいと作業を進めることができました。

令和5年5月にはコロナも5類となり日常を取り戻す中、139号から今回の144号までの6回の会報を発行することができました。

表紙は各地区のお祭りになり、142号からは縦書きから横書きになりました。素敵な写真を多く使いとても見やすい紙面になったと感じています。原稿を書かれた皆様ありがとうございました。

会報を見て、にっこり微笑んだり、話題のひとつになれたらうれしく思います。

これからも会報は続きますので褒めていただけると嬉しいです。2年間、ありがとうございました。

青梅分区 星野 和弘

部長	小野 静江
副部長	郡司 光志
副部長	中野 修
庶務	藤谷 立自
会計	木宮 憲子
部員	笹倉眞一郎
部員	星野 和弘
部員	木下 義彦
部員	岡部 秀敏
部員	山田 みな